

ガラテヤ人の手紙 2 章 20 節

もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。

今私が肉において生きているいのちは、私を愛し、私のためにご自分を与えてくださった、神の御子に対する信仰によるのです。

これはパウロという人物が書いた手紙です。ここは、1. イエス・キリストとはどういう方なのか。

2. この方の正体は誰なのか。3. この方が私たちのためにしてくださったのは何か。

3つのポイントで、見事に紹介している箇所なんですね。

私も今日ここから、3つのポイントでイエス・キリストをご紹介しますと思います。

1. 神の御子。イエス・キリストは神の御子。神のひとり子。

ここで言う神とは、創造主なるあなたの造り主のことです。何度も説明するのですが、日本人が一般的にイメージする神には、色んな八百万（やおよろず）の神々がいて、それらの神々は神話に基いているのですが、神話を作ったのは人間なんです。つまり神々と言われているものは、人が作った存在・人がこしらえた神々です。

しかし、聖書が語っている神は人をお造りになった方。あなたの作者。あなたの第一原因者。

全宇宙の第一原因者を創造主と言うんですね。

創造主なる神は目で見えることは出来ません。五感で知ることには出来ないのです。なので、人間の神に対するイメージは、その人の性格や今までの経験に由来するものになってしまうので歪みます。

「神様ってどんな方ですか？」 10人に聞いたら10通りの答えが出ると思いますよ。

ある方に聞いたら「バチ当てる存在です。」ある方は「何やっても赦してくれる おじいさんみたいな存在。」ある人は「いなくても一緒です。」

いったい創造主はどんな方なんだろう？どのようにして、それを正確に知ることが出来るのか？

私の偏見や私なりの解釈ではなく、実物大の神そのものの正確な本質は、どのようにして知ることが出来るのか？神の御子によって知ることが出来ると言うんですね。

随分前になるのですが、ある地方の集会・教会にお招きを受けて、聖書のお話をしに行きました。

そこに行く前、訪問するのがとっても楽しみでした。事前にメールで連絡があって、あるクリスチャン女性のご主人、まだクリスチャンじゃないんですが、YouTubeを見てくださって、大変心を開いている。非常に興味深くYouTubeを見ている。その時点で50-60本アップしてたんなんですが1本目から全部見たと。非常に心開いているから、メッセージが終わった後、個人面談の時間を持ってくださいと。お安い御用ですよ。そういう方のためにこそ、私は参上したいと心から願っているの、いそいそとそこへ行ったのですが…。

聞いてた話と違ったんですね。奥様がご主人連れて席に座っておられるのですが、メッセージの間中ずーっとしかめっ面。眉間にしわ寄せて、なんか苦々しい表情。やりにくい、やりにくい。

皆がハハハと笑う時もグーッと。私ね、何か失礼なことでもしてしまったのかな。気に障ることをしてしまったのかな。でも待てよ。最初からや。なんでやる？

お話が終わった後、ご挨拶に伺って「大阪から参りました。高原といいます。」

ひと言も口を開かないんです。黙礼。事前に聞いていた情報って、フェイクニュースかよと。あまりにも噂と実物が違うので、「怒ってはるし、気難しい方やなあ」と思いかけていた時に、奥様が口を開いて「先週、交通事故に遭ったんです。」口の中がグチャグチャに切れてる。喋れない。そして、恐らく集会が始まる前に、鎮痛剤の効き目が切れて来たんやと。痛みと闘いながら、痛みをこらえながらその場所にいた。どうしてもナマで聞きたいので、欠席は絶対イヤや。YouTubeにアップ、そんなんいやや。直に聞きたい。でも痛い。痛みと格闘しながら聞いていてくださったんですね。

私は真相というか、事情を正確に説明していただいて、「ああ、この人はそんなにも熱心に、聖書の福音に触れようとしておられるのだ！」とあって、もう敬服せざるを得ませんでした。そして、そのように正確な説明を聞くまでは、自分の心の中で何となくレッテル貼りというか、元々気難しい人・元々難しい人だと思いかけていました。それは偏見です。

その偏見を覆したのは正しい説明を受けたからですが、彼女はなぜ正しく説明できたのでしょうか？奥様だからです。一心同体の伴侶だからです。1週間前にあった事を事細かにご存知の方だからです。一緒に生活している人。人生を今まで共に歩んで来た人。ご主人のことについて、本人以外に最も詳しい人ですよね。なにしろ一心同体の片割れですから。なので、奥様の証言・説明を通して、「この人はこういう事情の、こういう人なんだ」と正確に知ることが出来たんですね。

同じように、目に見えない神を正確に知ろうとするならばどうしたらいいでしょう？

自分の経験に基いて神を判断するのは危険なことです。

人生の中で辛いことばかりあった人は恐らく、神とは私を呪う存在ではないか。

人生は苦難に満ち満ちたものだったと言う方は、人生と神をイコールで解釈する傾向があります。人生は辛かった。だから、神は私を辛いことに遭わせる神なのだ。辛い人生＝神の辛い性格の反映。このように解釈する方が多い。しかし、人生と神は別です。あなたの人生に起こった出来事は神ではありません。

神様って、いったいどんな方なんでしょう？それは、神と全く同じ本質の神の御子の説明を聞くのが、一番安全で確かな方法なのです。

ある時キリストは言われました。「わたしを見た者は父を見たのです。」イエス・キリストを見た者は、父なる神様を見たのと同じです。「わたしを知ることが父を知ることです。わたしによらなければ、父のところに行くことはできません。」神の御子だけが、父なる神を正確に説明することが出来るのですね。

イエスは人間じゃないか。もちろん人間ですよ。だけど、ただの人間じゃない。人となった神です。神なのに、神のあり方を捨てることは出来ないとは考えず、聖書預言通りに、人としてこの世界に誕生してくださった神の御子がイエス・キリスト。

私はイエス・キリストが神の御子であると信じています。だって、「わたしを見た者は、目に見えない父なる神を見たのと同じなのだ」と言い切るのは、自分自身を神と名乗ったのと同じですよ。普通の人間でそんなことを口にするのは、非常識か気がふれているか、どちらかではないでしょうか。

しかしイエスは、正に人となった神の御子であることを、自らのわざで立証された方です。

そのわざとは奇跡です。生まれつき目が見えない人の目を開け、生まれつき耳が聞こえず、言葉を話せない人の口を開き、生まれつき足が不自由で歩くことが出来ない方々を癒し、重い皮膚病を一瞬で癒し、そればかりか、3人の人を死からよみがえらせたんです。

ある人は「そんなのは、後から尾ひれが付いた作り話だ！」 私はそう思わないんですね。なぜか？

イエスを神の御子と認めていないユダヤ教の経典の中に、タルムードという本があります。

その中に、イエス・キリストが様々な奇跡を行ったということが書いてあるんですね。

イエス・キリストの弟子が「イエスが奇跡を行った」と言っているんじゃないんです。

イエスは神の御子なんかじゃない・救い主なんかじゃない、とイエスを認めたくない立場の人たちですら、イエスがこのような数々の奇跡を行ったということは認めているんです。

それを認めているのに、なぜ彼らはイエスを信じないのか？ “悪魔の力を使ってやったからだ” という説明なんですよ。しかしどちらにしても、奇跡を行ったことは認めている。

イエスの神性（しんせい）を認めたくない人たちですら、イエスのわざを認めているということは、その証言は受け入れていいんじゃないじゃありませんか？

イエス・キリストはご自分のわざを通して、不思議なしるしのわざを通して、神の御子であることを証言なさっているんですね。これが第1点です。イエス・キリストは**神の御子**である。

2. キリストはあなたを愛する方。

私を愛し、ここの主語はキリストです。キリストは私を愛した！

私というのは、この手害を書いたパウロ。新約聖書の手紙の大半を書いた人です。

彼はクリスチャンになる前、クリスチャンたちを大迫害していました。

イエス・キリストに対して大反対し、十字架に掛けられて処刑されたような人物が救い主であるはずがない！と、イエスに反抗し続けていた人物ですね。

しかしイエスは、罪に罪を重ねていた時の彼の前に現れて、「サウロ、サウロ。なぜわたしを迫害するのか」と、裁くのではなくよみがえりの姿を見せて、彼を救いに導かれて行くのです。

優等生の時、絶好調の時、正しい生き方をしている時、立派な人間だからあなたを愛します。

そうじゃないんです。私がまだ罪人であった時、私がまだイエスを迫害していた時、私がキリストを信じる者たちを死に至らしめるような 恐るべき犯罪に手を染めていた時、それでもキリストは**私を愛した**。パウロが「キリストは**私を愛し**、」と書いた時、自分が救われた時の決定的瞬間や経緯を考えて、「そんな愛はどこにもない」と思いながら書いていたんです。

私たちの愛は条件付きの愛ですよ。私はあなたを愛します。なぜなら、あなたは賢いから。裕福だから。親切だから。美しいから。有能だから。役に立つから。

しかし、神が私たちを愛してくださったのは、私たちの中に愛される理由があったからじゃないんですね。神ご自身の中に愛する理由があったからです。神の本質が愛だったからです。

Jesus loves you. Because Jesus is love. イエスはあなたを愛する。なぜならイエスは愛だから。あなたの出来が良いからではなく、イエスの本質が愛だから。

私は今年でクリスチャン生活 42 年になります。42 年クリスチャン生活を送って来て、最近ようやく分かってきたこと、つくづく「こうだよなあ」と見えて来たことがありますねえ。

それは、クリスチャンの人生はルールを守る生活ではない。修行を積んで行く生活でもない。

我慢と根性の生活でもない。神に愛される者の生活だと思っんです。

私は今までいっぱい失敗して来ました。クリスチャンになる前にも失敗して来まし、なった後にも失敗して来ました。つい最近も失敗をしてしまいました。

色んな方々に随分迷惑を掛けて来まし、掛けているし、これからも掛けると思っんです。

もし私がある事実だけを知って、神の愛を知らなければ、私の人生にあるのは絶望だけです。

神を知らずに自分自身の本質を知れば、結論は絶望なんです。

しかし、自分の現実を知りながら、同時に、神は私を愛してくださっている。

私はいっぱい失敗する者だけど、それにもかかわらず、私は神に愛されている者である。

神に愛されている者としての扱いを今まで受けて来まし、これからは神は私を愛して、愛する子供として、人生を導いてくださっているのだということを思い返していく時に、心配事がどんどん小さくなり、私の心はどんどん穏やかになり、人生が楽しくなり、私の人生は可能性に満ちた奇跡の連続だったのだ、と素直に思えるようになるのです。

キリストはどんな方でしょう？ ひと言で言うと、あなたを徹底的に愛している方です。

3. 私のためにご自分を与えてくださった方。

私のために、あなたのために、ご自分を与えてくださった方。

ご自分の持ち物を分けてくださったというのではなく、ご自分が持てる全存在を あなたのために与えてくださった方だ！と宣言するんですね。

もう 40 年くらい前、集会所がまだこの場所ではなかった時、集会に来る楽しみの 1 つに図書コーナーがあったんです。今でもあります。この図書コーナーには、世の中の本屋さんでは見ることの出来ないクリスチャンの証し（どうやってキリストを信じたのか）の本とか、聖書の参考書とか、良書と言われる本がズラッと並んでいるんです。

私は活字中毒人間なので、それを読むのがもう楽しみでね。あまりにも読み過ぎて、聖書を読むのが疎かになってしまいくらいだったんです。聖書はメインディッシュですよ。色んな本はおやつというか、聖書に勝るものはないんですが、あまりにも本が楽しかったんです。

その中で、今も覚えているクリスチャンの伝記があります。うろ覚えですけどね。

福島県浜通り。今そこで、私の大事な友人が開拓伝道していますが、そこ出身のイザワ キネオさんという方の証しの本です。キネオは記念の男と書いて記念男。男の子が生まれたということを記念したんでしょうか。待望の男の子だったんでしょうね。

ところが、生まれてすぐに小児麻痺に罹って言語障害。言葉がスラスラと出て来ない。

何を言っているのかよく分からない。更に歩行も困難で、ヨチヨチ・ヨタヨタとしか歩けない。

というか、言うようにして移動するんです。歩くのが非常に苦勞するという病の後遺症になってしまったんです。

物心ついた時、自分は他の人と非常に違うということで、当時の風潮もあったと思っんですが、前世の因縁という考え方に憑りつかれてしまいました。

前世の因縁とは何か？今生きているこの世は現世。現世の前に前世があった。

なぜ現世で不公平があるのか？生まれる前の前世で、自分が悪事を積んだからだという解釈です。

現世は、その償いをするために多くのハンディキャップを背負った人生なのだから、それを改造・改良するのではなく甘んじて受け入れよ、という人生観。

しかしこれは、彼にしてみたら「ということは何か？俺は罰を背負って、呪いを背負って、生まれて来たのか？呪われた存在か。」その考え方がどんどん深刻化していくに従って、もう生きていくのが辛くて辛くてたまらない。

見かねた両親が記念男さんをお寺に預けました。お寺で修行の生活をすれば、悟りを開いて戻ってくるかもしれない。しかし その修行生活は、却って因果応報の考えに彼を閉じ籠らせてしまい、一層深い絶望に落ちて行くんです。「もう、たまらん！」自分の呪わしい人生が嫌で嫌で仕方がない。そして、自分の人生を呪っている自分自身が嫌で嫌で仕方がない。

だけではなく、こんな自分を生んだ両親をも呪うようになったんです。自分のような呪わしい者は、もう終わった方がいい。しかし、こんな呪わしい自分を生んだ親も終わった方がいい。それでとうとう、寺から出て家に戻ったその日、深夜に1人起き出して家に火をつけた。家族が寝静まっている時に自宅に放火した。ところが、あまりにも火の勢いが凄まじいのを見て怖くなり、家から這い出して逃げ出し、家のすぐ近くの溝にドバツと落ちてしまいました。

幸い家族がパチパチと木が焼ける音に気づいたのですが、もう家は炎に包まれている。

「火事だー！火事だー！」大声で叫んで、消防隊は駆けつける。近所の人たちも駆けつける。家が崩落する直前まで貴重品やらを運び出すのですが、その中で1人お母さんだけが「記念男！記念男ー！どこなの一?!」半狂乱になって、大声で彼の名前を呼んでいる。

とうとう家が焼け崩れた時、「あの子は逃げ遅れたか」と半ば諦めかけているのに、お母さんだけは捜すのを諦めない。「もしかしたら、危険を察知して自力で出て行ったのかもしれない」と言って、家の周りを目を皿のようにして捜して捜して、遂に、泥の溜まった溝にはまっている記念男さんを見つけるんですね。その溝の中に下りて行って、泥まみれの彼を抱き上げ、ぎゅーっと抱きしめて、ひと言こう言ったそうです。「記念男、母さんのために生きておくれ。」これが、彼が新しく生きる意味を見つけた瞬間となりました。

「自分のように呪われた者にとって、呪われている自分のために生きるということは、因果の考え方ではあり得ない。私は多くのハンディを持っていて、何をやっても無理だ。なぜこんなに、人生上手くいかないんだ?!」

だけど、親をも呪う自分のことを愛しているお母さんの愛に触れた時、「このお母さんをこれ以上悲しませることはすまい。お母さんを傷つけるようなことはしたくない。お母さんは私が泥の中に落ち入っている時、自分も泥の中に下りて来た。私は不幸だと思っていたが、実はお母さんも不幸だった。ならば、私が幸せになることが、お母さんも幸せになるのかもしれない。」

人生のコンバージョン（転換）が始まるんです。最終的に、この方は牧師になりました。キリストの伝道者となり、主に東北地方で大胆に用いられた方です。伝えたい！という一心で、言語の訓練をして。

名文でね。その本ないかなと思って、さっき その図書館を捜しに捜したけど無かった。もしお持ちの方、ぜひ貸してください。また久し振りに読みたいなと思ったんですね。

なぜかという、私には、私のためにご自分をお捨てになったキリストが重なるからです。罪という泥まみれの私のところにキリストは下りて来て、「わたしはあなたを愛している。あなたの人生には目的がある。あなたは神に愛されるために造られた。あなたのために、父の家に住まいを用意してある。あなたには特別なミッションがある。わたしはあなたを愛して、あなたが父のところに帰ることが出来るように自分自身を全て捨てた。あの十字架の上で、わたしは命を投げ出して、あなたの罪の身代わりに、神の裁きの炎を全て引き受けた。」

崩落する家から皆逃げて行ったけど、神の怒りの火の中にキリストは留まって、その怒りの火を鎮火したのです。あなたが永久の安全を確保するために、キリストはあなたの身代わりになって、あの十字架の上に留まり、裁きを引き受けてくださった。そして、墓に葬られ、3日目に死を突き破って復活されました。

福音は単純です。私の罪のためにキリストが十字架に掛けられて死なれたこと。墓に葬られたこと。3日目によみがえられたこと。このことを信じる人は救われるのです。

ガラテヤ 2:20 もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。
今私が肉において生きているいのちは、私を愛し、私のためにご自分を与えてくださった、神の御子に対する信仰によるのです。

私を愛し、私のためにご自分を与えてくださった、神の御子に対する信仰によるのです。
キリストは確かに神の御子である。キリストは確かにあなたを愛しておられる。キリストは確かにあなたのために十字架に掛かってくださった。これは歴史的事実です。
あなたがそれを自分のものにするためには、この神の御子への信仰…この方を自分の救い主として信じる…という決心が必要なんです。信じることなんです。

信じたら何が起こるのか？

もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。
イエス・キリストを救い主として信じた人には、キリストが聖霊（キリストの霊）というかたちで、その人の内側に宿られます。それだけではない。

今私が肉において生きているいのち。これを細かく説明しますね。
今。これはキリストを信じている今です。キリストを信じる前もパウロは生きてましたよ。だけど、「キリストを信じる前は持っていなかった命を、キリストを信じた今 持つようになりました。」

肉は肉体のこと。肉体は命を入れる入れ物なんです。キリストを信じる前に持っていた命は、死につつつある命でした。今は生きていても寿命が来たら、100歳になったら120歳になる手前でいつか死ぬんです。死につつつある命、死に向かって行く命しか持っていなかった。
しかし、神の御子を救い主として信じる信仰を決意したその瞬間に、肉において生きているいのち。

今私が肉において生きているいのちは神を喜ぶ命のこと。別名“永遠の命”と呼ばれているものです。この永遠の命・新しい命は神に対して生きる命。神のことが分かる命。神の愛を味わう能力を持っている命。神に信頼したいという意欲を沸き立たせる命。

ガラテヤ 2:19a しかし私は、神に生きるために、律法によって律法に死にました。
神に生きるために。まだイエス・キリストを信じていない人は、神に対して死んでいます。

